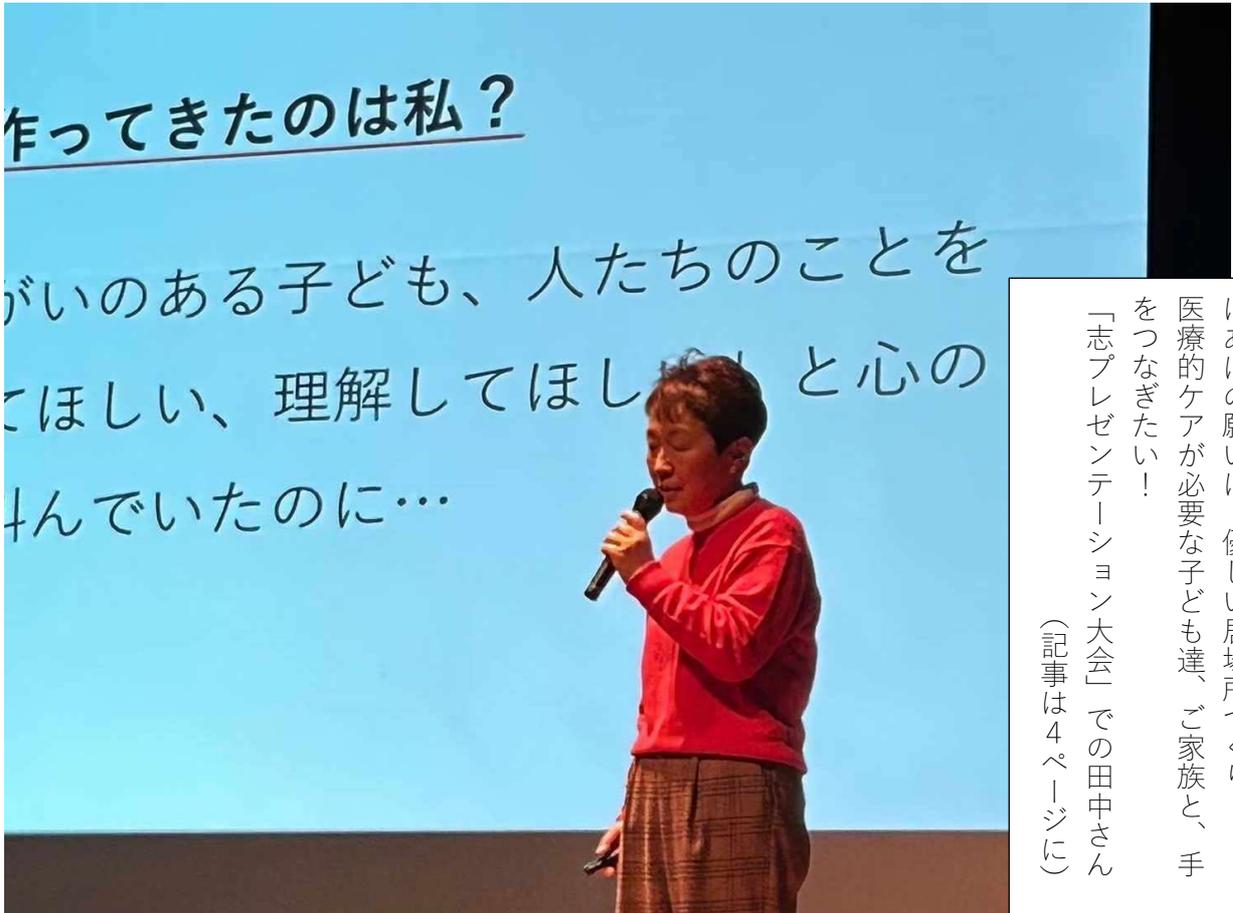
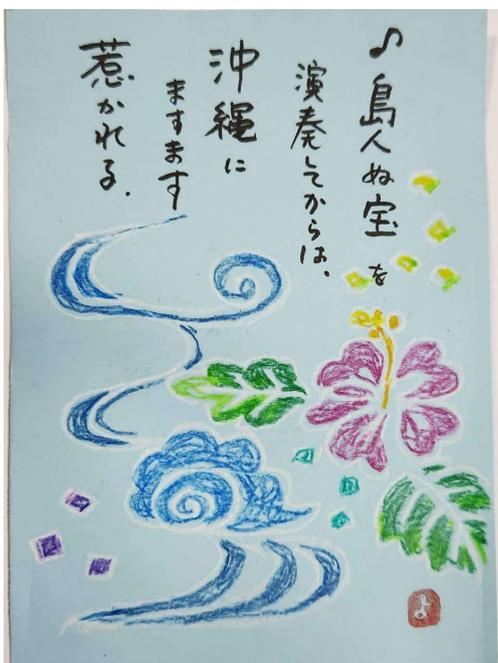


## 作ってきたのは私？

がいのある子ども、人たちのことを  
てほしい、理解してほしいと心の  
んでいたのに…



ばあばの願いは、優しい居場所づくり  
医療的ケアが必要な子ども達、ご家族と、手  
をつなぎたい！  
「志プレゼンテーション大会」での田中さん  
(記事は4ページに)



- ✎ うたかた話 (35) 随想録 1
- ✎ STEMz マンガ文庫 蔵書紹介  
～「渋谷栄一が生きた世界」が垣間見える作品～
- ✎ 医療的ケアが必要な子ども達、ご家族と、  
手をつなぎたい！
- ✎ 今月の五行歌
- ✎ なんちゃって農業女子(35)
- ✎ ～原発賠償関西訴訟第 47 回期日の報告～
- ✎ イベント紹介／会計報告

### 「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス：lip@love-dugong.net

TEL：070-5653-6913 (18時以降)



1945年8月15日、此は終戦の日ですが我々にとっては忘れることの出来ない日です。この日のラジオは正午に重大な放送がありますのでラジオは切らないでくださいと絶えず放送していました。

その日は天気の良い日でした。これは誰もが認める事です。その日の前日には京橋の砲兵工廠が爆撃に遭い多くの工員さんが亡くなりました。京橋の駅で時の城東線に乗り合わせて居られた人々が駅で列車が停まったので駅の下に避難されましたが、其処に砲兵工廠のそれ弾が落ちて結果多くの方が亡くなりました。当時の森小路の近くにあった石田病院の院長の息子さんもそこで亡くなりました。今でも其処には当時の犠牲者を弔う記念碑が建てられています。

私はその日は夏休み中でしたが午前中は学校に居ていました。私は夏休み中といえども毎日の様に学校に行っていた記憶があります。

後で聞いた話ですが京橋の爆撃の後の姿はそれは、それは目に余る残酷な状態だったという事です。私が今こうして生きていると言う事は京阪の京橋を通りながら実に運のいい男であったという事です。

瞬時にして命拾いをしたことは、数えれば幾らでも在ります。我が家の二階から伊丹の方向を見ていた時、グラマンが目の前をさっと飛び去った事も有りましたし、空襲の後、火の中を歩いて帰った事も在ります。又空襲の後天満橋のターミナル駅のがれきの間に居りました時、向かいの崖の上から豚の鳴き声の様な声を聞いた事も有りました。暫くしてその鳴き声も停まり何か落ちる様な音がした事が有りました事を覚えて居ります。

終戦の日は朝からラジオが昼に重大な放送がありますのでラジオを切らないで下さいと言いつつ続けていました。この様な状況ですが、未だ頑張っていました。この様な状況ですが、未だ頑張っていました。その間にも絶えず空襲があり家の入り口を入ったり出たりしていた記憶があります。

家族全員で昼の放送を聞きましたが、雑音が

ひどくて何の放送か良く判りませんでした。所詮は天皇からもしっかり頑張ってくれるよとの放送だと誰もが解釈しておりました。しかしそれ以降は空襲がありませんでした。私の家の二階を焼け出された松岡さんという方に貸して居ましたのでその方が帰ってこられて『戦争が終わりました』と云われて戦争が済んだことを初めて知りました。我々はそんないい加減な生活をしていました。

そう言えばその日の昼からはもう空襲もありませんでしたし、何より嬉しかったのは夜も堂々と電気を点けて過ごせる事でした。そしてその日から灯火管制をせずに堂々と電気を点けて寝たのを覚えています。

一日違いで京橋ではあの世とこの世の別れが起っていました。この様な事は戦争でしか起こらないと思います。将に人の命は判らないとつくづく考えさせられました。そしてその日から我々は平和への戦いが始まった事になります。

学制はどんどん変化しますし、我々も靱工業が廃校になり、靱商業となり今まで廃校状態だった扇町商業が復活し、従来の大坂の姿に戻りつつありました。

この頃で私の記憶に一番残っているのは、夏休みに補習講座を抜け出して全員で夏の野球大会の予選を見に行こうとした事と、全校で実施され常識試験で私が全校二位に成ったことです。

この二つの事を書いて見たいと思います。

第一は補習講座をサボって怒られたことです。母体は扇町商業ですが戦時中の事でもあり商業は要らないという事で靱工業として再発足しました。戦争が済んでから又元の扇町商業学校になりました。商業科目の教育を一科目もうけておりませんので、夏休みを利用して商業科目の補習の時間が造られました。当初から扇町商業に入りたかったのが此は当初の目的に沿った事になります。

工業に残りたい人は同じ市立の都島工業に転校出来ました。

今回は上記の続きの事を書いてみたと思います。今回は是でお終いとします。

「おしまい」

小田川徳男

## うたかた話(35) 随想録(1) 終戦の日

## STEMz マンガ文庫 蔵書紹介 ～「渋沢栄一が生きた世界」が垣間見える作品～

7月がやってきました！2024年も半分が終わってしまいました！今回は7月からお目見えする新紙幣に因んで、「渋沢栄一が生きた世界」が垣間見える作品を紹介します。

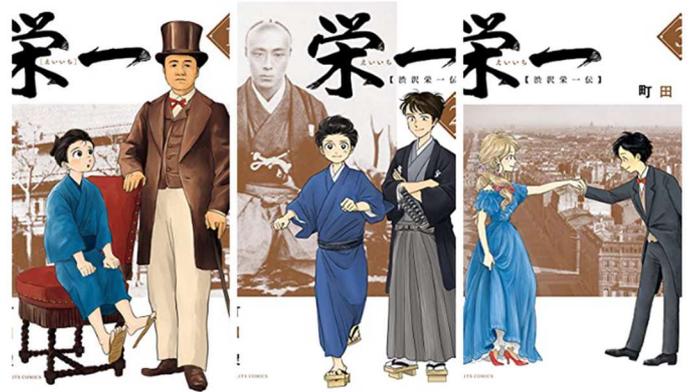
**ふしぎの国のバード 既刊11巻 著：佐々大河**



19世紀から20世紀初めにかけて世界各地を訪れた実在するイギリス人女性冒険家イザベラ・バードを描いた作品。物語は明治初期の日本を舞台に、イザベラ・バードが通訳ガイドの日本人男性・伊藤鶴吉と共に、横浜から蝦夷地（現在の北海道）へと旅する姿を描いています。バードの目的は、近代化によって消えゆく日本古来の生活を記録に残すこと。

カメラのない時代に当時の人々の生活を記した記録は、どれほど貴重だったことでしょうか。バードの視点で描かれた日本は、現代のカメラそのもの。外国人であるバードだからこそフラットで第三者的な視点で見えている部分が多いのも面白いです。日本の文化や国民性が150年の時を超えてうかがい知れる作品となっています。

本作品の8巻の巻末に紹介されているパリ万博の様子では、日本の大道芸人がロンドンで公演した話が納められています。当時の日本人は海外でどんな風に見られていたのだろう…？今はどうか分かりませんが、外国人が持つ”ちょんまげに刀”というイメージは、きっと最初に見た日本人のイメージが強烈だったんだろうなと思います。



**栄一 全4巻 著：町田翠**

「日本資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一。その礎となったのが、1867年のパリ万国博覧会への参加だったと言われています。当時27歳の渋沢は、徳川慶喜の弟・昭武に随行する形で、幕府の使節団の一員としてパリへ渡りました。

この時期、日本は大政奉還を目前に控え、激動の時代を迎えていました。そんな中での渡欧は、渋沢にとって人生の転機となったことでしょう。パリ滞在中、彼は西洋の先進的な経済システムや金融制度、株式会社の仕組みなどを学んだんだとか。特に、銀行業務や株式会社の設立要件、貨幣制度などの知識は、後の日本の近代化に大きく貢献することになります。

この経験を通じて、彼はそれまでの攘夷思想から一転し、西洋文明の進歩に感嘆し、その知識を日本の発展に役立てることを決意することになります。帰国後、渋沢は近代的な企業の設立や金融制度の改革に尽力し、約500もの企業や団体の設立に関わりました。パリ万博での経験は、まさに渋沢栄一を「日本資本主義の父」へと導いた原点であり、近代化を強烈に進める躍進力となったはずです。

来年には大阪万博がありますね！当時と今では万博のあり方は変わっているとは思いますが、国を挙げての一大イベントであることには変わりありません。

新たな変化、進化の兆しが見られるのか！？一月後の変化すら予想できない現代の博覧会って、ホント何を目玉とするのか難しそうですね！

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)  
[STEMz マンガ文庫]で検索！

## ばあばの願いは、優しい居場所づくり 医療的ケアが必要な子ども達、ご家族と、手をつなぎたい！

医療的ケア児のお孫さんをお持ちの女性が、枚方で、医療的ケア児と家族のための集いを始められたと聞いて、お話を聞きに行きました。

### 福祉サービスを使い、家族で支える 医療的ケア児の生活

田中直美さんは、枚方市在住。保育士として長く公立保育所で勤務、退職後の現在も週2日アルバイトとして保育所で働いています。車で10分ほどのところに住む娘さん夫婦には3人のお子さんがいて、真ん中の5歳の湊斗（みなと）さんが、気管切開、胃ろう、夜間は人工呼吸器装着といった医療的ケアを必要とする医療的ケア児\*です。娘さん夫婦は共働きのため保育所に入所を申し込むのですが、看護師が手配できないという理由で何年待っても入所が叶いません。現在、湊斗さんは朝9時から訪問看護やりハビリを在宅で受け、10時に児童デイの送迎でデイに出発。湊斗さんママは朝7時過ぎに出勤するので、その後パパが、そして9時前には直美ばあばかじいじがおうちに行って、児童デイの送迎車への送り出しまでの時間を見守ります。夕方児童デイからの送迎は、早出出勤のママが迎え入れ。家族皆で協力し時間をやりくりして湊斗さんの見守りを行い、娘さん夫婦が働き続けられるようにしています。

### 「志（こころざし）プレゼンテーション」から、ひろがって

医療的ケア児の保育所入所を求めて市長に手紙を書いたり、就学を前に支援学校に電話したら「医療的ケア児は送迎バスに乗せられない」と言われ、「なぜですか？」と訴えたりしてきた直美さん。ある日いつも娘さん家族を気遣ってくれている知人が「私は何も力になれていない



……」と言ったのを聞いて、ハッとしました。家族やデイで1日を過ごすだけではなく、湊斗と一緒に外に出て、いろんな人や地域と関わっていくことが大切なのでは、と思い始めたのです。「この子と私は住む世界が違う」というのではなく、社会にはいろんな人たちがいる、医療的ケア児もその家族もこの地域でイキイキ暮らしているんだと周囲に知ってもらい、知らせていくことが必要なのではないかしら……。

保育関係のお友だちと旅行したときに直美さんがそんな思いを語ると、「これに出てみない？」と「志（こころざし）プレゼンテーション」というイベントを紹介されました。「ここで、あなたの思いを話してきたら？」と勧められ、一念発起した直美さん。周囲に教えてもらいながら初めてのパワーポイントで5分間のプレゼン原稿を作成して、見事予選を通過。5人のプレゼンターの1人に選ばれ、2月25日（日）枚方市立総合文化芸術センターで開催された「志プレゼンテーション大会」で、約300人の来場者の前で8分間のプレゼンテーションを行いました。

志として、何がやりたいの？ プレゼン原稿を作成するなかで係の人に何度も問われ、自分が何をやりたいのかはっきりしてきたと直美さん。拠点保育所で月一度開かれる医療的ケア児

の地域開放に行ってみると、それぞれの家族は利用する機関とつながっていてそこでのつながりがあるようだけれど、もっと広いつながりができたらいいんじゃないかな。未就学児の学校選びや、中学校はどうなん？とか、気軽に話せる場があればいいな。一家族でならランチに出るのも気兼ねかも、でも何家族か集まったらコーナーを借りて楽しくランチできるんじゃない？ 思いがふくらみます。

「医療的ケア児と共に進む会」作りました！

まずはLINEでおしゃべりしましょう

周囲に呼びかけ、4月7日(日)サンプラザ生涯学習市民センターに直美さんの思いに共感したカウンセラーや看護師、現役ママなど約10人が集まり、「医療的ケア児と共に進む会」が結成されました。みんなで相談して、写真入りのかわいいチラシも作りました。「まずはLINEでおしゃべりしましょう。QRコードからアクセスしてみてね！」と直美さん。共に過ごせる

優しい居場所を作りたい！ 願いは大きくひろがっていきます。

⇒ ⇒ ⇒

こちらからお気軽にどうぞ

⇒ ⇒ ⇒



(文：LIP編集局 豊高明枝)

／ 写真：志プレゼンテーション)

\*医療的ケア児：厚生労働省のホームページによると、医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として、NICU（新生児特定集中治療室）等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことで、全国の医療的ケア児（在宅）は、約2万人〈推計〉であるとされています。令和3年「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が公布、施行され、医療的ケア児への支援は地方自治体の『責務』であると示され、制度の整備が進められています。

イベント・サークル・ボランティア情報

【毎月第1日曜日 開催】

がんサロン ソシオ 13:00~16:00

参加費 500円 (ワンドリンク付)

- ◆がん患者様やそのご家族・ご友人が集う場所
- ◆ハンドケアを受けながらお話しできます
- ◆看護師・ソシオエスティシャン・認定心理士常駐

AYA語り BAR 17:00~20:00

参加費 1000円 (おつまみ付)

好きなドリンク持ち込み可

- ◆AYA世代 (15歳~39歳) のがん罹患患者さんの語り場
- ◆アピランスケア (外見の変化による苦痛の軽減ケア) など外部講師から受ける機会を企画

がん患者さんとそのご家族、関係するすべての人に、自分らしく過ごしてほしい……そんな思いからこの場は創られました。ひとりで悩んで辛くなってしまふこと、お互いに話したり、聴いたりしませんか？ 一緒に立ったり、笑ったり……そんな、心が繋がる時間を過ごせる場所です。

- ◆開催場所 Rose スイートたいむ
- ◆連絡先 枚方市長尾台3丁目28-35 072-807-3216 reconfort234@gmail.com
- ◆最寄り駅 【京阪バス】大阪国際大学徒歩5分



LIPが選ぶ

# 今月の五行歌

前後左右入念に確認

浮遊

人の気配 煮し

今がチャンス!

エイツと飛び越す

雨上がりの水溜り

同い年の友人

まゆみ

デイサービスに

通いだしたらしい

それぞれの

暮らしがある

頑張る を手放していく

桑本明枝

還暦後

気づけば怠情から自堕落へ

おいしい

戻ってこ〜い、私

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。

(連絡先: akkie\_toyotaka@gmail.com)

または 090-5893-5635・豊高)

No.35

## なんちゃって農業女子(笑)

今回も、前回からの「新転地(青谷)」での畑作業の報告です。私の職場は現在 JR 山城青谷駅の近くになりました。写真①は、新転地での「最初の収穫野菜」です。そう、玉ねぎ。去年の10月に以前の「京田辺のファーム」で種まきトレイに種をまいて苗を作ったものをこちらの青谷ファームに運んで、11月黙々と植え付けした日々を思い出します。青谷で最初の野菜ですが、当時は引っ越し作業に追われ二拠点での仕事で、毎回あっちいたり、こっちいたり……落ち着いて農作業ができる環境にはなかったけれども玉ねぎたちは頑張ってくれたのです。これが、今季最初の収穫物です。日々感謝。新転地で現在は水道の確保も出来てきれいな水が出るようになりました。

しかし、雨が降ると、水が溜まり(前回も書いたけど……)たまるという程度のものでなく水浸しの土地です。そもそも「田んぼ」だった場所を畑に転用するには、溝を掘りつつ手前から順番に溝の深さを深くして人工的に傾斜をつけるしかないので。先日ようやく「傾斜の測量」を専門家の方をお願いして測り、もう少し計画的に溝を作る予定です。

今は、水のためるハウスの中で、写真②のように、1kgずつ玉ねぎを計量し、ネットの中に入れる作業をしていますが、ハウス内では「保



①



②

管」に向かないため(湿っているので乾かない)ので、写真③のように、廃棄せざる得ない玉ねぎもたくさん出て、残渣置き場に捨ててもらえないのです。

6月ようやく「さつまいも」の苗を植え付けしましたが、現在なんとか順調に生育中のようです。この報告はまた次回以降で(笑)

ちなみに、ファームの「有機無農薬栽培の玉ねぎ」を販売しております。我が家のお近くにお住まいの方のみ、お運び致しますので、お声掛けください。腐らせて廃棄する前に食べてあげたいです。

―――次回もお楽しみに



③

## 「人の命」と「健康」と「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判 ～原発賠償関西訴訟第47回期日の報告～

5月30日(木)大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第47回期日が開かれました。この裁判は、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが国と東京電力(以下、東電)に対して起こしたものです。

この日の期日は大法廷で行われました。公共交通機関のダイヤの乱れもあり、9時20分傍聴席の抽選が行われましたが、傍聴希望者の数が席数に満たず、遅れて来た人も法廷前で係員から傍聴券をもらって傍聴できました。

法廷では、事故発生時各々福島市や、郡山市、須賀川市に住んでいた原告が、午前中2人、午後は3人、本人尋問に答えました。証言台に立ち宣誓を行うと、原告は、まず原告代理人から20分の主尋問、続いて被告東電代理人と被告国代理人から各々20分の反対尋問を受けます。

主尋問に答えて、避難元の福島では近くに親族が多くいて密に交流していたが、避難後はだんだん疎遠になり交流が途絶えてしまったと語る原告。避難先の関西で言葉の違いなどに苦しんだ妻と、結果的には離婚してしまったと語る原告。子を自由に外で遊ばせたいと被ばくを避けて避難したが、夫は仕事で地元に残り、二重生活の負担は重く、子は情緒不安定になった、事故がなければ全く違う生活をしていた、と語る原告。避難先からいったん自宅に戻った、そのせいか甲状腺の異常が見つかり、健康面の不安が大きいと訴える原告。「国・東電に言いたいことはありますか?」と主尋問の最後に原告代理人から問われ、「行政が出している情報は、目的があって出している情報だ。あえて正確な情報を出すと不安を倍増させるから、と出さないこともある。国はもちろん、市や町なども、こういう情報を市民に受け取ってほしいという情報を出している。不正確だ。それを正してくれる機関はどこ? それは司法しかないと思



サポーターも一緒に「笑顔で支えます!」

う」とこの日最後に尋問に立った原告男性は語りました。

反対尋問では、避難元の自治体では事故発生後の夏に屋外の夏祭りが開かれた、広報に「安全です」と書かれていた、それを知っていますか、読みましたかというような、原告の避難に合理性があったのかと疑いを投げかけるような問いや、原告の勤務先の会社やそこでの待遇などについての

問い、また、原告の親兄弟やその配偶者、姻戚の人たちの状況に関する問いも多く出されました。原告の奥さんのお兄さんの奥さんの両親はどちらにお住まいか?と被告東電代理人から問いが出されたときには、それ、関係あるの?と傍聴席から思わず失笑。よっぽど聞くことないんやなあ、と、こっすりつぶやきも。

お昼休みと閉廷後には、裁判所すぐ近くの弁護士会館で、各々ミニ報告集会が開かれました。「汗をだいぶかきましたが、言いたいことは言えました」と報告する原告に大きな拍手。京都訴訟や兵庫訴訟の原告、サポーターから、励ましと共感の言葉。高知や東京から駆けつけたサポーター、フランスから

一時帰国中の方からも、応援のメッセージ。和訳された、56頁にのぼる『国内避難民の人権に関するダマリー国連特別報告者による訪日調査報告書(2023)』の配布と紹介もありました。進行協議から戻ってきた代理人弁護士からは、「来年1月から9月まで6回の本人尋問の期日の日程が決定した」と報告。本人尋問が終わるといよいよ結審、そして判決です。「昨年5月24日に始まった本人尋問も、今日で9回目。3年かけてやると言っていたのですが、もう先が見えてきました。これからはますますの応援を!」と原告団代表・森松明希子さんからの挨拶

で集会を閉じました。

次回第48回期日は7月11日(木)。大阪地方裁判所大法廷で、10時から午後5時まで行われます。(文・豊高明枝/写真・田中里子、堀越善孝)



「ダマリー報告書の重要パラグラフは、15と16と101。特に15では、政府の無責任な対応を痛烈に非難しています。インターネット上でも読めるので、ぜひ一読を!此日本語の一端を担った小橋かおるさんと、原告団代表の森松さん。

# イベント・サークル・ボランティア情報

## 枚方市こころの電話相談室 電話相談ボランティア養成講座 受講生募集

不安や悩みを持ちながらも誰にも話せず、誰にも聞いてもらえずにいる人がいます。不安や悩みをかかえ、思い悩んでいる人の気持ちに寄り添い、よき隣人、よき聴き手となって受話器に耳を傾けるボランティア活動「枚方市こころの電話相談室」は、この度、電話相談員の養成講座を開催します。活動に興味のある方のお申し込みをお待ちしています（申込書は公共施設にあり）。

- ◆ 募集期間：令和6年8月1日（木）～令和6年9月20日（金）
- ◆ 養成期間：令和6年10月5日（土）～令和7年3月29日（土）
- ◆ 内容：講義、ケース研究、実習等
- ◆ 受講料：15,000円
- ◆ 受講資格：①令和6年9月20日時点で23歳以上70歳程度の健康な方  
②「こころの電話相談室」の趣旨に賛同し、月2回以上の電話相談と毎月の研修に参加できる方  
③開講前の面接に来所できる方
- ◆ 問合せ先：〒573-1191 枚方市新町2丁目1-35 枚方市社会福祉協議会 生活支援課
- ◆ 電話相談ボランティア養成講座係 072-807-3017

応援ありがとうございます♪

# LIP 応援団

仲澤孝宣さん

## LIP 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
53,425	前号から繰り越し
3,000	応援団寄付
▼3,872	6月号印刷用紙代
▼500	ロッカー代
▼1,240	6月号印刷代
▼368	郵送代
50,445	計(次号へ繰り越し)

# STOP WAR NOW STOP WAR NOW

## 【参加者募集】

放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」情報交換・交流会  
子どものこと、学校のこと、高校進学、勉強や、家庭での時間の過ごし方について、気になることはないですか？保護者どうし、時には支援者を交えて、おしゃべり情報交換しましょう。

日時：8月8日（木）10時30分～15時  
（13時～14時以外出入り自由）  
10時30分～12時30分 おしゃべり情報交換交流会  
13時～14時 身体まぐしのフェルデンクライス体験レッスン（要予約） バスタオルと水分持参  
14時～15時 おしゃべり情報交換交流会  
場所：ラポールひらかた 3階 和室  
参加費：13時からのレッスン参加者は、会員500円、一般1,500円  
その他の時間は、無料  
申込み・問合せ先：090-5893-5635（豊高・16時以降）

## 【枚方自閉症児（者）親の会】

自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリートークでご参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。  
◆日時：7月8日（金）10:00～12:00  
◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム  
※連絡先 春名 072-397-0053 三浪 072-868-9929

## 第30回「障害」のある子どもの高校進学を考える学習会

◇とき：2024年7月21日（日）午後1時45分～4時45分  
◇ところ：ラポールひらかた 3階 研修室1  
枚方市新町2-1-35（TEL072-845-1602）駐車場無  
京阪枚方駅下車 北へ500メートル  
◇参加協力費（資料代）500円（1家族につき）  
◇申し込み：会場参加は申し込み不要です。

ZOOM参加の方は、7月18日（木）までに、松森宛にメールが電話で申し込んでください。URLと資料を送らせて頂きます。協力費の振り込み方法は、学習会終了後にお知らせします。  
◇松森のアドレス→matumori@cruxocn.ne.jp  
◇問い合わせ先：関山絨子 090-2599-6162  
松森俊尚 090-1960-3469  
◇主催：知的障害者を普通高校へ北河内連絡会  
◇共催：豊屋川市の義務教育における医療的ケアを考える会  
◇協力：大阪府教育庁  
◇後援：枚方市教育委員会、大東市教育委員会、守口市教育委員会、  
四條畷市・交野市・寝屋川市・門真市の書く教育委員会は、申請中(6/26現在)

＝内容＝

- ① 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会
- ② 大阪府教育庁高等教育改革課主任指導主事 加藤肇昭さん  
「障害者」の高校受験について  
「自立支援コース」「共生推進教室」の説明など
- ③ 「大阪府立高校受験のあらまし」片岡次雄さん
- ④ お話し～私が経験したこと、考えたこと  
大阪府立柴島高校自立支援コースに通学するジェイミーさん  
お母さんの佐々木サミュエルズ順子さん  
お父さんのステイブさん  
「子ども達が教えてくれた」とも学ぶ 素直らしさ
- ⑤ フリートーク：会場とZOOMをつないで質疑応答、意見交流、情報交換
- ⑥ 終了後、どんな小さな疑問にも答える進路相談会を開きます。

----- みなさまのご参加を心よりお待ちしております。-----

# 枚方コーりん

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ➡➡



イラスト

表紙：平井由恵